



Michigan Newsletter

June 2026

No.21

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. 彦根市姉妹都市、アナーバー市内映画館での滋賀 PR !

ページ 1

文化交流

1. アジア・太平洋の熱気であふれるフェスティバルが開催 !

ページ 2

ミシガントピック

1. ミシガン州、オレンジ色の“ドラム缶”の季節
2. ミシガン州立大学、世界最強の希少同位体施設に迫る !

ページ 2 ~ 5

経済交流

1. 彦根市姉妹都市、アナーバー市内映画館での滋賀 PR !

6月14日から20日までの1週間、日本文化発信イベント「アナーバー ジャパンウィーク」がアナーバー市内各地で開かれました。期間中のプログラムはどれも無料で、多くの地域住民に日本文化を伝えることをその目的としています。

主催者のミシガン大学日本研究センターは、1947年に創設された北米で最も長い歴史と伝統を誇る日本研究の拠点です。第2次世界大戦後のアメリカにおける日本研究の基礎を築き、現在に至るまで多角的な分野から研究を牽引してきました。



豪華な内装で知られる歴史ある映画館。



映像やパンフレットを使ったプロモーション。

18日には、市ダウンタウンにある映画館「ミシガンシアター」で日本映画の上映会が行われ、ロビーに滋賀県ブースを設置し、観光プロモーションを行う機会をいただきました。さらに、上映直前のステージで、滋賀県とミシガン州の友好親善使節団や、アナーバー市と姉妹関係にある彦根市民からの寄付で植樹されたソメイヨシノが楽しめる同市内の「ヒコネ通り」の紹介をするなど、家族連れや日本に興味のある参加者に両県州の特別なつながりをアピールすることができました。

文化交流

1. アジア・太平洋の熱気であふれるフェスティバルが開催！

6 月 12 日、近江八幡市の姉妹都市、グランドラピッズ市で年 1 回開催される「アジア・パシフィックフェスティバル」にて、グランドラピッズ近江八幡姉妹都市委員会がブースを出展したことから、観光パンフレットの配布、日本の玩具や書道などのアクティビティの支援を行いました。

グランドラピッズ市役所前広場を会場に、アジアの様々な国や地域の伝統や文化への理解を深めるこのイベント。日中は家族連れ、夕方からは仕事を終えた人たちなどで終始賑わい、私たちのブースには、これから日本を訪問予定の方、JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）で日本に滞在した方、中国語を習っていて漢字に興味津々の小学生なども立ち寄ってくれました。



グランドラピッズ近江八幡姉妹都市委員会のブース



食や音楽、アクティビティなど子供から大人まで親しみやすいテーマを入りに、文化に対する理解と認識を深めてもらうことが、自分たちが受け入れられていると感じられる、安全で居心地の良いコミュニティを作ることができる、という主催者の思いや志を感じます。日本を知り、興味を持ってもらうことは、その地域に住むアジア系コミュニティの人たちにも寄与することを改めて感じました。

市境に設置されているウェルカムボード。
近江八幡を含む 6 つの姉妹都市が記載。

ミシガンピック

1 ミシガン州、オレンジ色の“ドラム缶”の季節

誰もが待ち望んだミシガンの春。雪や寒さの心配もなく、車の運転も安心できると思った矢先、毎日大量に目にするようになったのが、オレンジ色の“ドラム缶”。

ホイットマー州知事が今年 2 月の施政方針演説にて、聴衆の笑いを誘った一節を思い出しました。「ミシガン州史上最も多忙な道路工事シーズンをいくつか乗り越えてきましたが、今後もさらに続きます。あのオレンジ色のドラム缶を見かけることになると思います。ご迷惑をおかけして申し訳ありません、そしてお役に立てて（道路が良くなって）どういたしまして！」



道路工事用バリケード、
英語では「オレンジバレル」

このドラム缶は、道路工事用バリケードのことで、日本でよく見る三角コーンよりも大きく、風で倒れないように底面に重いゴム製の土台がついています。建設・工事シーズンには道路の至る所にこのドラム缶が並ぶことから、工事の多さや渋滞、うんざりするような風景の代名詞として使われているようです。

4月に2026年の道路建設シーズンの正式な開始を宣言して以来、ホイットマー州知事がヘルメット姿で工事現場に現れる姿がメディアで何度も取り上げられています。穴だらけの道路が改善されることはうれしいものの、道路工事は前触れもなく始まったり、突然車線が変わったりすることも多く、日々の生活に車の運転が欠かせないミシガン州民にとっては、早く終わってほしい時期の一つなのかもしれません。



ランシング市の駐在員のオフィス周りの道路も閉鎖。



アナーバー市内交差点の工事は化石発掘現場のよう。



2 ミシガン州立大学、世界最強の希少同位体施設に迫る！

州都ランシングの隣、イーストランシング市にあるミシガン州立大学は、17学部、400を超える専攻をもつ、総合大学です。

彦根市にあるミシガン州立大学連合日本センターの、ミシガン側で学生リクルート等を担うイーストランシングオフィスがこの大学内にあることから、仕事で立ち寄ることも多いのですが、驚くのは、この大学が学生だけでなく、市民が週末や平日の夜に出かける場所でもあることです。

アメリカンフットボール、バスケットボール、ホッケーなどの競技場がキャンパス内にあり、多くの市民や卒業生が試合観戦に足を運びます。他にも、モダンな無料美術館、プラネタリウム、昆虫館、博物館、子供向けの公園、日本庭園、アイスクリームショップなど、市民に開かれている施設は枚挙にいとまがなく、まるでアミューズメントパークのよう。週末にキャンパスで家族連れの姿を見かけることも多く、大学が家族で週末に遊びに出かける場所でもあることにただただ驚きで、大学の存在が学生だけでなく街の人たちの人生を豊かにしていることを実感します。

毎年4月には、「MSUサイエンス・フェスティバル」が1ヶ月にわたって開催され、小さな子供から大人までが最先端の科学・技術・工学・数学に無料で触れることができます。期間中は大学キャンパスや州内各地で計200以上のワークショップ、ツアー等が実施されます。ハイライトともいえるエキスポ・デーでは、キャンパス内の建物の中に100以上のブースが集まり、遺伝子学、分子生物学、病理学、動物学、水環境学など、大人でもそんな分野があったのかと驚くような最新の研究を、各分野で学ぶ学生達が体験型アクティビティを通してわかりやすく説明してくれます。幼児から低学年までを対象としたブースもあり、イチゴをつぶして遺伝子を取り出す、マシュマロとつまようじを使って立体構造を作る等、身近なものやテーマを切り口に理系分野に触れることができます。

この「MSUサイエンス・フェスティバル」の一環として開催された、希少同位体ビーム施設(FRIBという略称でも知られています)のバーチャルツアーに参加しました。通常実施されている施設ツアーでは入れない場所が映像で映し出され、ガイドより、「こういった研究施設がキャンパスの真ん中にあるのは大変珍しい。」「連邦政府の補助金が投入されており、国中のすべての人がこのプロジェクトを支えており、医療の分野での貢献等で人々の生活や未来を支えている。」と聞き、文系の私ですが、知らなかった事実ばかりで大興奮！そして、その世界では有名であるにもかかわらず、意外にも一般に広く知られていないということにも惹かれ、詳しく調査することにしました。



このミシガン州立大学にある希少同位体ビーム施設は、2022年5月に開所以来、世界最強を誇る希少同位体加速器を稼働させている、世界有数の研究・研修拠点です。米国エネルギー省科学局とミシガン州の資金提供を受け、7億3000万ドル(約1,000億円)を投じて構想、設計、建設され、米国エネルギー省のユーザー施設として運営され、全米および世界中から研究者が集まる、まさに核物理学のハブとなっています。

施設の中には、地下10メートル下に、450メートル以上のビームラインが、ゼムクリップのような形でおりたまれており、これが地上にある実験機器と接続されています。原子核加速器で加速させ、原子核を破壊することでこの原子核の仕組みを解明するという仕組みです。

日本でいうと理科学研究所が、世界で最も変化に富んだ放射性同位元素(RI)ビームを生成できる施設を持ち、これと似ているそうです。



希少同位体ビーム施設外観。(同施設より提供)

原子核の研究というと、一見私たちの生活には関係ないように思えますが、未発見の短寿命原子核を研究できるようになったおかげで、癌の診断や治療など医学の発展や、病気のメカニズム解明、エネルギー分野などに貢献しています。この研究施設の存在は、地域の関連企業の経済発展も支えており、先月5月には、先進放射性同位元素技術の分野で全米をリードするNiowave社(本社:ランシング市)が事業拡大を発表し話題になりました。ホイットマー州知事も「今回の事業拡大は、ランシング地域、そしてミシガン州にとって、ま

さに画期的な出来事です。」「より多くの癌患者が、命を救う医薬品や治療法を利用できるようになります。」とコメントされています。

2018 年から 2024 年にかけて、ミシガン州立大学は全米の原子核物理学博士号の 17%を授与しており、学位取得にかかる年数の中央値は 5.33 年(全米中央値 6 年)、博士課程の修了率は 81%(全米平均 60%)となっています。現在、約 450 名の従業員に加え、約 100 名の学部生と約 130 名の大学院生が在籍しています。なんと、全米の原子核物理学を学ぶ大学院生の半数以上が、この施設で研究を行っています。ミシガン州立大学は研究水準が非常に高いことでも知られており、原子核科学、加速器科学、低温工学、放射線化学を学ぶ優秀な学生を引き付けています。

目にも見えない小さな原子核を破壊するために、4.6ヘクタール以上(東京ドームとほぼ同じ)の広大な敷地に様々な巨大設備を備えているのには驚くばかりです。施設内は写真撮影も不可ということで、なかなか魅力を伝えきれませんが、興味を持たれた方はぜひツアーで新しいミシガン州立大学の一面を発見してみてください。

〈この記事は希少同位体ビーム施設担当者様にご協力・ご確認をいただき作成しました。〉